

		魚 類		ト ン ボ 類	
					
<p>コガモ<カモ科> 名前の通りカモ類の中では小型。冬鳥として渡来する。オスは頭部が赤褐色で目から後頭部にかけて緑色で、目の下に細い白色部がある。からだはほぼ灰色。メスは全体が褐色。中郷温水池など止水域を中心にみられる。</p>	<p>キンクロハジロ<カモ科> 冬鳥として渡来する。オスは白と黒の体色と冠毛が特徴的。メスは全体が褐色。中郷温水池など止水域を中心にみられる。</p>	<p>ホトケドジョウ<ドジョウ科> レッドデータ：環境省 絶滅危惧ⅠB類 全長4~8cm。ドジョウに比べ、ずんぐりしている。ひげは8本。湧水を水源とする細流などに生息する。源兵衛川はじめ市内の湧水河川に生息している。</p>	<p>オイカワ<コイ科> 全長12~15cm。臀びれは大きく伸長する。体側には不規則な淡色の横帯がある。オスは繁殖期には体側が緑色やピンクになり美しい。市内各河川に生息するが、近年やや減少傾向である。</p>	<p>アオハダトンボ<カワトンボ科> レッドデータ：環境省 準絶滅危惧 全長55~63mm。水生植物が豊富な清流に生息する。県内での分布は狩野川水系にほぼ限られる。オスは翅全体が青藍色に輝く。メスの翅はやや褐色がかかった黒色。市内では清住緑地の細流に限ってみられる。</p>	<p>アオモンイトトンボ<イトトンボ科> 全長29~38mm。池沼や河川の淀みなどに生息する。池沼や河川敷の水たまりなどに生息する。オスは腹部先端近くの青色斑が特徴である。中郷温水池など止水域に多い。</p>
					
<p>キジバト<ハト科> 体色は茶褐色とやや紫がかかった灰色の部分がある。翼にあるうこ状の模様の特徴的。明るいうちの林床などで地面に降りて餌をとる。雑食だが種子や穀物をよく食う。</p>	<p>セグロセキレイ<セキレイ科> 頭から背にかけてと胸部が黒色で腹部は白色。尾羽が長く、よく上下に振る。水辺に生息し、市街地の水辺でも目にする。雑食だがトンボなど水辺の昆虫を捕る。</p>	<p>アブラハヤ<コイ科> 全長8~10cm。体側には黒と金色の縦帯が入る。市内各河川に生息し、源兵衛川では個体数が多い。体に油を塗ったようなヌメリがあるのでこの名がある。</p>	<p>カマツカ<コイ科> 全長12~20cm。背面は黒っぽく体側にかけて不規則な暗色斑と小斑点がある。河川や水路などに生息する。主に底層に住み、底生動物を好む。源兵衛川では比較的普通である。</p>	<p>ハグロトンボ<カワトンボ科> 全長54~68mm。水生植物が繁茂した河川や用水路などに生息する。オスメスとも翅が黒い。オスの腹部は金属光沢のある緑色メスは黒褐色。市内の山田川などで確認されており、湧水河川では源兵衛川に多い。</p>	<p>ギンヤンマ<ヤンマ科> 全長65~84mm。池沼や河川敷の水たまりなどに生息する。オスは湖岸防端近くの青色斑が特徴である。中郷温水池など止水域に多い。オスメスともに複助から翅胸にかけて鮮やかな黄緑色で、オスの腹部第1~2節の青色斑が特徴である。中郷温水池や松毛川など止水域に多い。</p>
					
<p>カワセミ<カワセミ科> 頭部から背面、翼など体の上面は鮮やかな青色、腹部など体下面は橙色。動物食で水をめがけてダイビングし、小魚や甲殻類などをとらえて食う。</p>	<p>メジロ<メジロ科> ややくすんだ黄緑色でスズメよりやや小さい。目の周りには白いアイリングがある。市街地の庭や街路樹、公園などでもみられる。雑食性で、昆虫、果実、花の蜜などを好む。</p>	<p>ヨシノボリの一種(旧名トウヨシノボリ) <ハゼ科> 河川や水路、池沼など様々な環境に生息する。市内の河川では源兵衛川に多い。旧・トウヨシノボリは変異が多く、今後の研究がまたれる。</p>	<p>ボウズハゼ<ハゼ科> 全長8~15cm。体は細長く円筒形。腹びれが変化した腹吸盤は吸着力が強く、水流さえあれば急な勾配でも遡上する。石の表面に付着した藻類を食べる。三島梅花藻の里内の湧水池で複数確認されたことがある。</p>	<p>ダビドサナエ<サナエトンボ科> 全長40~51mm。河川上流から中流域に生息する。体色は黒地に黄色斑がある。源兵衛川には多くの幼虫が確認され、4~5月には河川敷の踏み石や護岸壁などで大量の羽化がみられる。</p>	<p>オニヤンマ<オニヤンマ科> 全長82~114mm。日本最大のトンボで、体色は黒地に黄色斑がある。河川上流から中流域、小川や用水路などに生息する。市内各河川に生息する。</p>